

Copyrighted materials of the authors

日本語のノダに類する文末談話標識の通言語的研究：  
「思考プロセス」の観点からのアプローチ

2015年度第3回研究会と公開ワークショップの報告

報告者名： 角田三枝（AA研共同研究員 立正大学非常勤講師）

日時： 2016年1月23日（土曜日）：午後1時より6時まで  
1月24日（日曜日）：午前9時より午後3時半まで

場所： 1月23日 AA研304号室：公開ワークショップ  
1月24日 AA研302号室：研究会

参加者（9名）： 梅谷博之、海老原志穂、大塚行誠、桐生和幸、児倉徳和、  
千田俊太郎、角田太作、星泉、角田三枝

1月23日（土）

13時から18時過ぎまで、公開ワークショップを行った。

ワークショップの内容

- (1) 「日本語のノダに類する文末表標識の通言語的研究・調査結果と発見」 角田三枝  
（AA研共同研究員、立正大学非常勤講師）
- (2) 各言語におけるノダ文相当表現  
「朝鮮語」 千田俊太郎（AA研共同研究員、京都大学）  
「アムド・チベット語」 海老原志穂（AA研共同研究員、AA研研究機関研究員）  
「カム・チベット語」 星泉（AA研）  
「シベ語」 児倉徳和（AA研）  
「モンゴル語」 梅谷博之（AA研共同研究員、AA研特任研究員）  
「ビルマ語」 大塚行誠（AA研共同研究員、東京外国語大学非常勤講師）  
「ネパール語」 桐生和幸（AA研共同研究員、美作大学）
- (3) 「本プロジェクトの一般言語学と類型論における貢献」 角田太作（AA研共同研究員、国立国語研究所名誉教授）

1月24日（日）

以下のディスカッションを行った。

- (1) 本共同研究の成果総括（角田三枝、全員）
- (2) 今後の成果発表の方針（全員）

<公開ワークショップ、および研究会の成果>

23日は、2013年度から2015年度までの三年間の共同研究の最後の研究会として、公開ワークショップを行った。10名の外部参加者が集まった。個々の発表においては、三年間の研究期間において行ったことや、新たな発見を報告した。それぞれ内容の濃い発表だったので、初めての参加者にはわかりにくいこともあるかと思われたが、外部参加者は、本共同研究の独自の調査方法や調査結果の内容に関心を持ってくれたようであった。質問等でディスカッションも盛り上がり、とても充実した会となった。聴衆からは、「ノダ相当文」のない言語との兼ね合いについても、今後研究を広げてほしいといった提案もあった。

24日は、はじめのセッションでは、角田三枝から、研究内容についてのさらなる発見等を述べ、また他のメンバーともディスカッションを行い、その後は、今後の成果発表（論文や書籍）について話し合った。3年間の研究結果をまとめることができ、また、今後の研究や成果発表についての方針を確認することができた。